

韓国環境部プレスリリース 2019 年 12 月 22 日付

京畿道野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出 (野生いのしし 49-50 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do;jsessionid=VUgsDOF+54CzfPq0rr12DY0.mehome1?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1151115&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院（院長：チャン・ユンソク）は、京畿道（キョンギド）坡州（パジュ）津東面（チンドンミョン）と郡内面（クンネミョン）で発見された野生いのしし弊死体 2 体から ASF ウイルスが検出されたと 12 月 22 日明らかにした。

津東面（チンドンミョン）で発見された弊死体は、12 月 18 日 2 次フェンス内地雷地帯で軍によって発見された後、地雷探知を経て 20 日収集した。郡内面（クンネミョン）で発見された弊死体は、20 日 1 次フェンスを点検中の坡州市（パジュシ）庁職員によって発見された。坡州市（パジュシ）は野生いのしし ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒・死体処理を行った。

国立環境科学院は 12 月 22 日 ASF ウイルス陽性の確定診断結果を関係機関に通知した。坡州（パジュ）では 19 件の野生いのしし ASF 陽性の確定診断事例となり、全国的には 50 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"弊死体 2 体は民間制限線内 2 次フェンスの中で発見された"として、"感染地域を囲んでいるフェンスの中ではより多くの感染弊死体が発見されるだろう"と話した。

以上